

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(石油:<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>)

マイライブラリー:0410

(注)本稿は2017年5月8日から26日まで6回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

業績回復著しいスーパーメジャー:五大国際石油企業2017年1-3月期決算速報

2017.5.29

前田 高行

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 五社の1-3月期業績比較	2
2. 2016年第1四半期以降の四半期別業績の推移	5

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の1-3月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合及び上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<http://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earns-4-billion-during-first-quarter-2017>

Shell:

<http://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2017/first-quarter-2017-results-announcement.html>

BP:

<http://www.bp.com/en/global/corporate/media/press-releases/first-quarter-2017-results.html>

Total:

<http://www.total.com/en/media/news/press-releases/2017-first-quarter-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-first-quarter-net-income-of-2-7-billion>

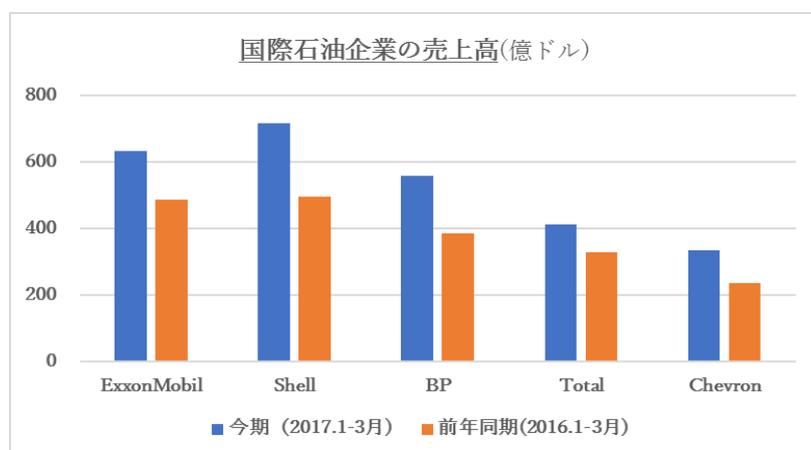
なお前期(2016年10-12月期)、2016年通期及び2009年から2016年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

1. 五社の1-3月期業績比較 (末尾表:1-D-4-22 参照)

五社を横並びで比較すると売上高、下流部門利益及び設備投資額では Shell がトップである。しかし総合利益、上流部門利益および原油と天然ガスを合計した生産量の各部門では ExxonMobil がトップであり、上流部門では Shell が5社の中で唯一欠損を出している。売上高利益率は Chevron がトップである。原油生産量では ExxonMobil がずば抜けて大きく、天然ガス生産量では Shell と ExxonMobil がほぼ同量で他の3社を大きく引き離している。

(売り上げは各社とも前年同期比で 30~50%アップ!)

(1) 売上高

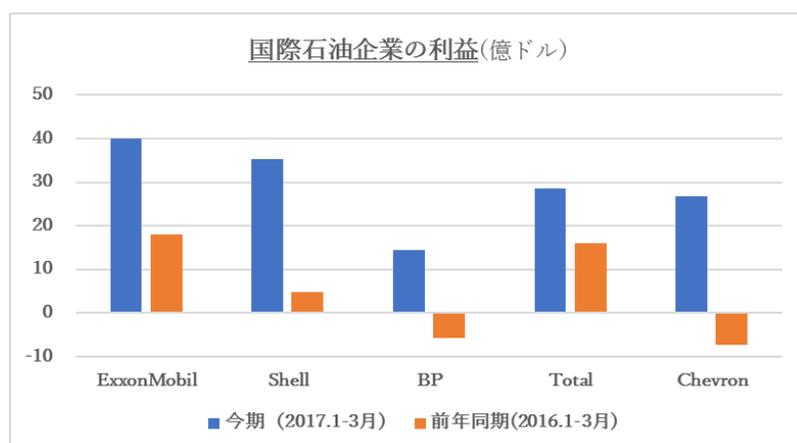


2017年1-3月の売上高は5社ともに前年同期に比べ3割乃至5割と大幅に増加した。各社の原油・天然ガス生産量は数%の増減にとどまっており(本稿下記参照)、従って売り上げの上昇は原油価格が昨年年初を底に回復したためである。因みに Shell の決算資料で見ると、昨年第1四半期はバ

レル当たり平均29.5ドルであったものが、今期は48.4ドルと大幅に上昇している。2011年あるいは2012年のピーク時には年間平均価格が100ドルを超えたが、昨年第一四半期はその時の4分の1であり、今期は2分の1である。原油価格の上昇がそのまま各社の売上高の増加に反映されたと言えよう。

各社の売上高および対前年同期の増加幅は、ExxonMobil が633億ドル(30%増)、Shell 718億ドル(44%増)、BP 559億ドル(45%増)、Total 412億ドル(25%増)、Chevron 334億ドル(42%増)であった。

(2) 総合利益

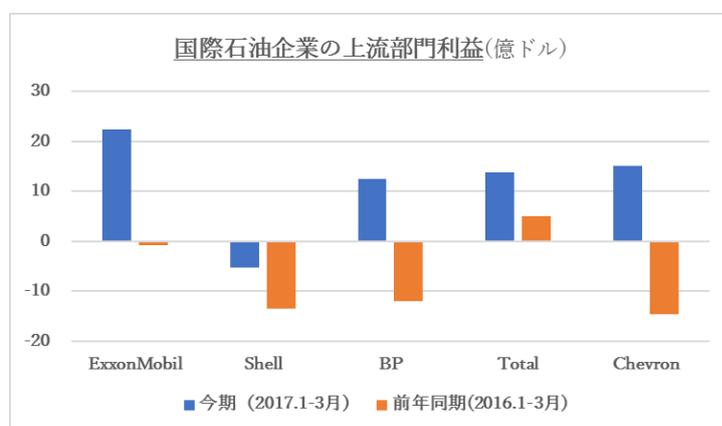


今期は5社ともに利益を計上している。利益額が5社の中で最も大きいのは ExxonMobil の40億ドルであり前年同期(18億ドル)の2.2倍である。ExxonMobil に次いで利益が多いのは Shell の35億ドルであり、同社の場合は前年同期比で8

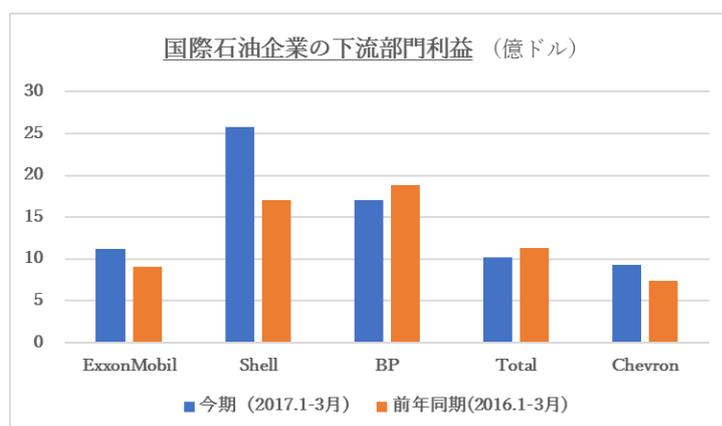
倍弱である。Total と Chevron の利益はそれぞれ28億ドル及び27億ドルであり、前年同期に比較すると Total は1.8倍である。Chevron は前年同期の7億ドルの欠損から急回復している。BP は Chevron と同じく前年同期は5.8億ドルの欠損であったが、今期は14億ドルの利益を計上している。但しこれでも利益の水準は ExxonMobil の3分の1強、Shell の2分の1弱にとどまっている。
 (注)Shell の利益額は同社財務諸表の「Income/(loss) attributable to Royal Dutch Shell plc shareholders」の数値を取り上げている。

(3)上流部門と下流部門の利益

利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、まず上流部門では前年同期は Total 以外の4社はマイナスであったが、今期は Shell を除く4社は利益を計上している。この1年の間に原油価格が大きく改善したこと、及び各社が上流部門の投資ポートフォリオを見直したことにより各社とも上流部門で利益が出る体質に変化したと言えよう。



5社の中で今期の上流部門の利益が最も多かったのは ExxonMobil の23億ドルでこれに次ぐのが Chevron 15億ドル、Total 14億ドル、BP 13億ドルである。Shell のみは今期も5億ドルの赤字を計上している。



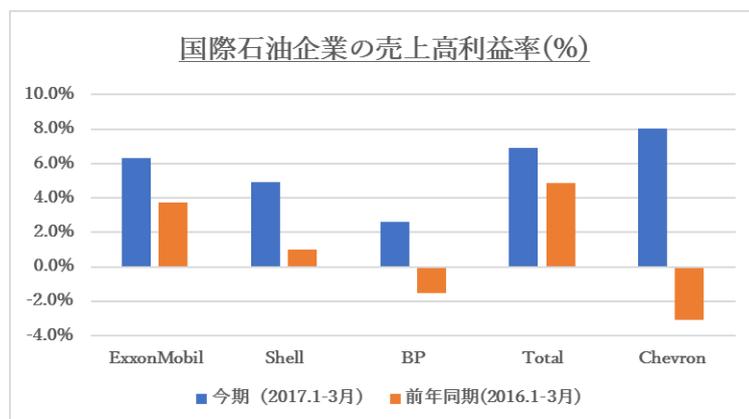
下流部門は今期も好調で全社利益を計上している。利益額が最も大きいのは Shell の26億ドルであり、次いで BP が17億ドルの黒字を計上している。その他の3社の下流部門の利益は、ExxonMobil 11億ドル、Total 10億ドル、Chevron 9億ドルである。前年同期比では各社で明暗が分かれた。Shell は50%の増益であり、また

Chevron 及び ExxonMobil も25%前後利益が拡大している。しかし BP 及び Total の2社は前年同期より利益が減少している。下流部門は原油価格の上昇が原料のコストアップとなり上流部門とは正反対の効果をもたらすことになるが、製品価格への転嫁、製油所の効率化・集約化など企業努力の結果が各社の下流部門の業績に反映しているようである。

なお冒頭の総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

各社の上流部門と下流部門の損益を比較すると、ExxonMobil、Total 及び Chevron の3社は上流部門が下流部門を上回り、一方、Shell 及び BP は下流部門の利益が上流部門のそれを上回っている。かつて石油価格が高かった時代は国際石油企業は利益の大半を原油・天然ガスの生産(上流部門)で稼ぎ、精製、石油化学など(下流部門)の低収益を補うという収益構造であった。その後昨年前半までの約2年間は原油価格が大幅に下落したため収益構造が逆転、上流部門の利益が急減する一方、精製、石油化学部門は原料の原油・天然ガス価格が急落したため利益の出る体質に変化した。しかし、昨年後半以降は原油・天然ガス価格が持ち直しており、各社とも上流部門と下流部門の収益が変動しつつあり、それが今期の決算に表れたと言えよう。

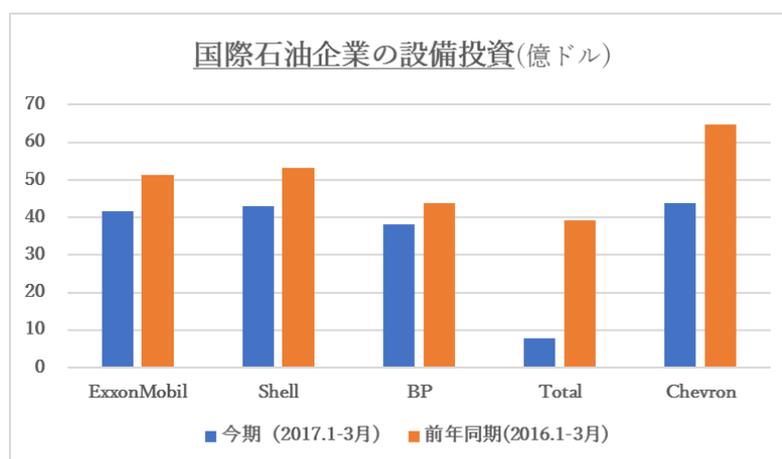
(4) 売上高利益率



売上高利益率は Chevron が8.0%と最も高く、Total 6.9%、ExxonMobil 6.3%、Shell 4.9%と続いている。利益率が最も低いのはBPの2.6%である。前年同期は Chevron が-3.1%と最も低く、BPの利益率もマイナス(-1.5%)で、もっとも高い利益率を誇った Total は4.9%であった。今期は全社とも利益

率が大幅に改善している。

(5) 設備投資



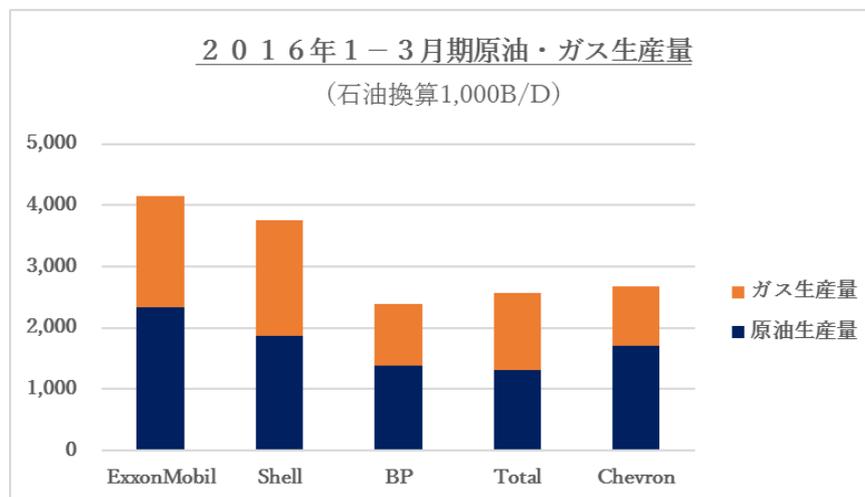
2017年1-3月期の各社の設備投資額は Chevron が44億ドルと最も多く、Shell が43億ドル、ExxonMobil が42億ドル、BP が38億ドルと4社とも40億ドル前後である。これに対して Total は8億ドルにとどまり、4社と大きな開きがある。前年同期と比較すると BP は13%減、ExxonMobil と Shell は20%減である。

Chevron と Total はさらに減少幅が大きく Chevron は3割減、Total は8割減である。石油価格が上昇し財務に余裕が出ているが、石油の需要そのものの伸びないため、各社とも設備投資に対する慎重な姿勢が続いているようである。

(5) 原油・ガス生産量(末尾表 1-D-4-22 参照)

今年1-3月の原油生産量はExxonMobilが平均日産量233万バレル(以下 B/D)で5社の中で

は最も多い。その他の4社はいずれも200万 B/D 以下であり、Shell が187万 B/D、Chevron 171万 B/D、BP は139万 B/D、Total は ExxonMobil の6割弱の130万 B/D で5社の中では最も少ない。ExxonMobil は世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較すると Shell は4.8%増であるが、ExxonMobil は8.1%減と5社の中で最も大きく沈み込んでいる。Chevron も前年同期比-4.1%であり、BP と Total は横ばい状況である。



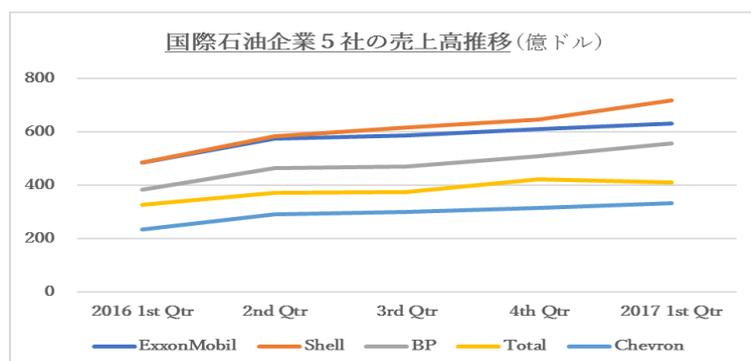
天然ガスの生産量は Shell と ExxonMobil がそろって100億立方フィート(以下 cfd)を超える生産を誇っている。残る3社は Total が69億 cfd であり BP、Chevron は58億 cfd と上位2社の5割強にとどまっている。前年同期に比べると Chevron は9.4%、Total は7%それぞれ増加しているが、ExxonMobil と Shell は横ばい、BP はわずかながら減少している。

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は415万 B/D でこれに次ぐのが Shell の375万 B/D である。その他の3社はいずれも250万 B/D 前後である。石油と天然ガスの比率を見ると、5社ともに石油の比率が高いが、Chevron は石油64%、天然ガス36%であり5社の中では石油の比率が最も高い。また BP 及び ExxonMobil はそれぞれ石油58%:天然ガス42%、石油56%:天然ガス44%と石油の比率が高い。これに対して Total は石油が51%、天然ガスが49%と拮抗しており、Shell は50対50と5社の中では天然ガスの比率が最も高い。

2. 2016年第1四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2016年1-3月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

(1) 売上高の推移

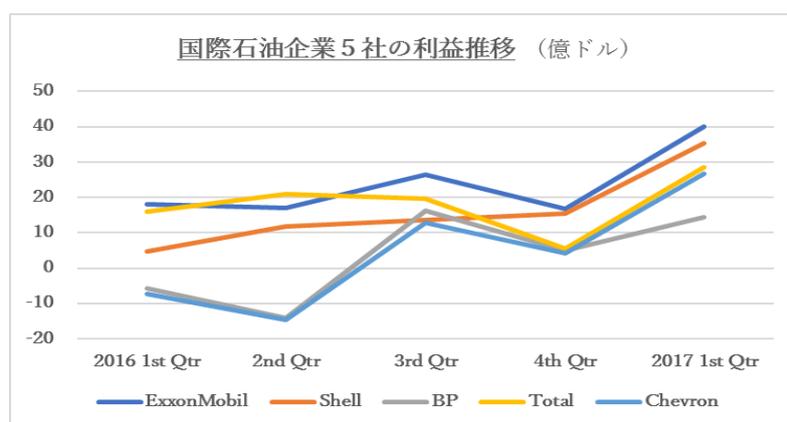


2016年第1四半期から2017年第1四半期に至る四半期ベースの売上高は原油価格の回復を受けて各社とも増収基調にある。5社の中では Shell が486億ドル('16 1st Qtr) → 584億ドル(2nd Qtr) → 619億ドル(3rd Qtr) → 648億ドル(4th Qtr) → 718億ドル('17 1st Qtr)と2016年第

二四半期以降は4期連続で売り上げトップを続けている。これに次ぐのが ExxonMobil でありその売上高は487億ドル('16 1st Qtr)→577億ドル(2nd Qtr)→587億ドル(3rd Qtr)→610億ドル(4th Qtr)→633億ドル('17 1st Qtr)である。ExxonMobil は第二四半期に7億ドルの差で Shell に売上トップの座を譲ったが、それ以来両社の格差は広がる傾向にあり、今期は85億ドルの差がついた。

この間の四半期平均原油価格(1バレル当たり)の推移を Shell の決算資料で見ると29.49ドル('16 1st Qtr)→39.31ドル(2nd Qtr)→40.43ドル(3rd Qtr)→44.54ドル(4th Qtr)→48.36ドル('17 1st Qtr)であり、過去1年間の間に原油価格は64%上昇している。

(2)利益の推移



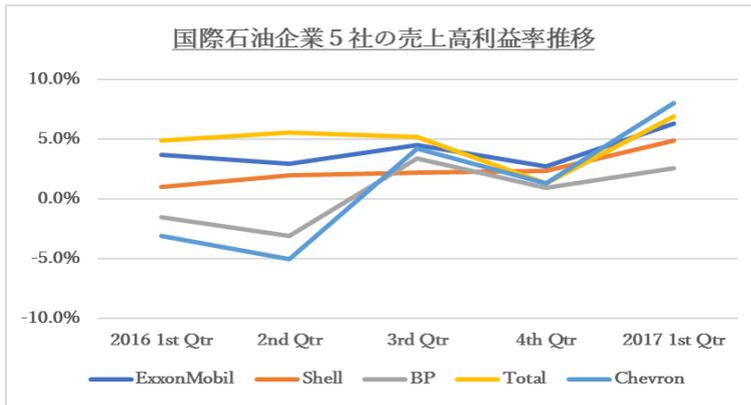
過去1年間の四半期ごとの利益水準は各社によって異なるものの、全体を通してみると増益傾向にあると言って良く、BP と Chevron が2016年第一及び第二四半期で欠損を出したことを除けば各社とも利益を計上している。

5社の中では2015年第一四半期に18億ドルの利益を計上した ExxonMobil は四半期ごとに対前期比で増益あるいは減益を繰り返しているが(18億ドル→17億ドル→27億ドル→17億ドル→40億ドル)、2016年第二四半期に Total を下回った以外は5社のトップを維持している。ExxonMobil に続くのは Shell であり、同社は2016年第一四半期の利益5億ドル以降每期増益を繰り返しており、2017年第1四半期は利益35億ドルと ExxonMobil に迫っている。

BP と Chevron は2016年第一、第二四半期と2期連続でほぼ同額の欠損を出した後、続く第3、第4四半期は両社ほぼ同額の利益に転じている。しかし今年第1四半期には Chevron が大きく利益を伸ばして Total とほぼ同額になったが、BP の今年第1四半期の利益は前年第3四半期の利益水準を下回る14億ドルにとどまり、5社の中では最も利益が少ない。売り上げ規模では BP は5社中の3位であるが(上記(1)参照)、利益水準は低い。

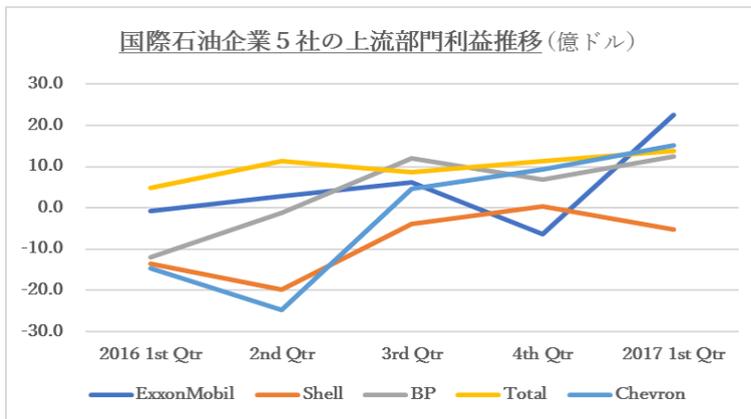
(3)売上高利益率の推移

1年前の昨年第一四半期の五社の利益率は大きな格差があり、最も高い Total は4.9%、これに次ぐのが ExxonMobil 3.7%であった。Shell は利益率1.0%にとどまり、BP 及び Chevron は共にマイナスの利益率(BP:-1.5%、Chevron:-3.1%)であった。第二四半期も BP と Chevron はマイナスであったが、第3四半期には全社プラスに転じ、最高が Total の5.2%、最も低い Shell が2.2%と大きな差は見られない。第四四半期は Shell を除き4社の利益率は低下したが、2017年第1四半期は全社とも利益率はアップし、トップは Chevron の8.0%であり、以下 Total 6.9%、ExxonMobil 6.3%、Shell 4.9%となり、BP が最も低い2.6%であった。



(4) 部門別利益の推移

(4-1) 上流部門

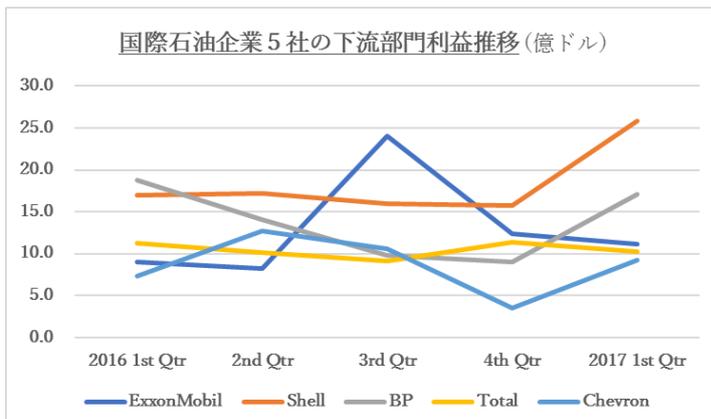


前年の2016年第1四半期の各社の上流部門の利益は Total を除く他の4社はいずれも欠損を出しており、そのうち Chevron、Shell 及び BP はいずれも13億ドル前後のマイナスであり、ExxonMobil が1億ドルの欠損であった。続く第2四半期は ExxonMobil がプラスに転じたが、Chevron、Shell 及び BP は引き続き

マイナスを計上、特に Chevron 及び Shell はそれぞれマイナス25億ドル、同20億ドルと前期を上回る欠損を計上した。第3四半期には Chevron、BP も利益に転じ Shell を除く4社は利益を計上した。第4四半期は ExxonMobil が欠損となり、その他の4社は利益を計上、今期(2017年第1四半期)は Shell が5.3億ドルの欠損であったが、その他の4社は利益を計上、特に ExxonMobil は5四半期期を通じて5社で最高の23億ドルの利益を計上した。

5四半期を通じて各社の上流部門の利益の推移を見ると、ExxonMobil、Chevron、Total 及び BP はほぼ順調に利益を伸ばしているのに対して、Shell は利益の増加傾向はみられるものの5期のうち4期はマイナスであり他の4社に比べて見劣りがする。

(4-2) 下流部門



下流部門は2016年第一四半期から今年2017年第一四半期までの5期連続して全社が利益を計上している。Shell は2016年中は各期とも16億ドル前後の安定的な利益を出し、2017年第1四半期は26億ドルと大幅に増加、5社の中で最高の利益を計上している。ExxonMobil、Total 及び Chevron の2016年第1四半期は共に10億ド

ル前後の利益であった。その後、第3四半期で ExxonMobil の利益が他の2社を圧倒し、逆に第4四半期には Chevron が他の2社の利益を大幅に下回ったが、今年第1四半期には再び3社とも10億ドル前後の利益に落ち着いている。BP は ExxonMobil とこれら3社との中間で利益が上下している。

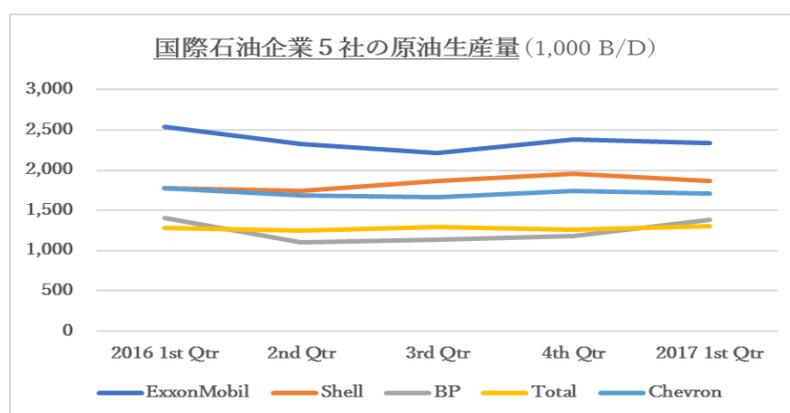
(5) 設備投資の推移

5社の四半期ベースの設備投資額は70億ドルを下回る低い水準が続いており、また期を追うごとに投資額が減少する傾向にある。Chevron は5社の中で設備投資が最も高く2016年第1四半期には65億ドルであったがその後低下し続け、2017年第1四半期の投資額は前年同期の3分の2の44億ドルにとどまっている。また ExxonMobil も昨年1-3月期の51億ドルに対して今年同期は19%減の42億ドルであり、Shell 及び BP もそれぞれ18%、13%の減少であった。5社の中で減少幅が最も大きかったのは Total で昨年1-3月期に39億ドルの設備投資を行った同社は一時51億ドルまで増加したものの、今期は8億ドルに急減している。

2. 2015年第1四半期以降の四半期別業績の推移(続き)

(6) 原油・天然ガス生産量の推移

(6-1) 原油生産量



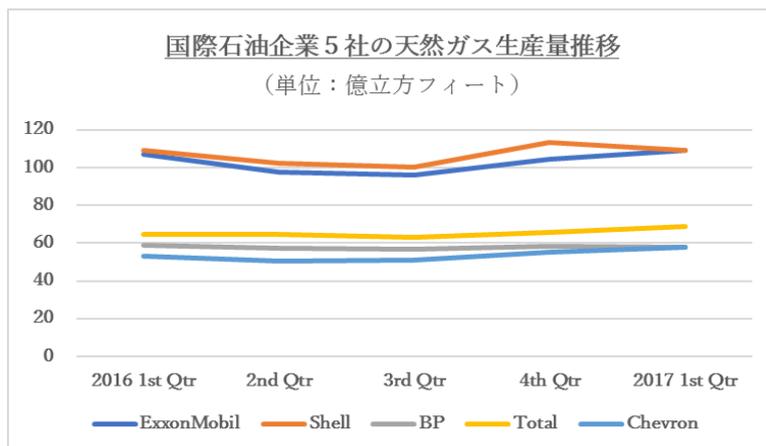
過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見ると5社の順位に変化はなく、ExxonMobil が他社を引き離してトップを守り、Shell と Chevron が2番手グループ、BP と Total がほぼ同じ生産量で3番手グループである。しかし首位の ExxonMobil の生産量は5社の中でただ1社200万

B/D 台の生産量を維持しているものの、年間を通じて低落傾向にあり、Chevron も減少しつつある。これに対して Shell 及び Total は年間を通じて現状維持を続け、BP も年央の落ち込みをカバーして生産量を維持している。

2016年第1四半期の各社の生産量は ExxonMobil が254万 B/D で Shell 及び Chevron は同じ生産量(178万 B/D)、BP が141万 B/D、Total 129万 B/D であった。Total の生産量は ExxonMobil のほぼ2分の1にとどまっている。

その後 ExxonMobil は第2四半期に233万 B/D に下落、今年第1四半期も233万 B/D にとどまり1年前に比べて生産量は8%低下している。Shell と Chevron は生産量に大きな変化はなく2016年第1四半期の178万 B/D に対して1年後の今年第1四半期はそれぞれ187万 B/D と171万 B/D である。この結果 ExxonMobil と Shell の格差は1年前の30%から1年後には20%に縮まっている。

(6-2) 天然ガス生産量

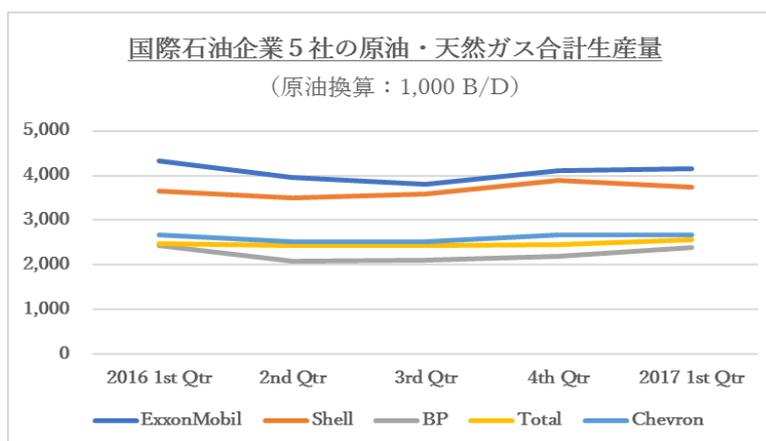


天然ガスの生産量はExxonMobilとShellの上位グループとBP、Total、Chevronの下位グループの2極に分かれており、上位2社がコンスタントに日量100億立方フィートを生産し続けているのに対してTotalは60億立方フィート台、BPとChevronは50億立方フィート台の生産量にとどまっている。

年間の推移を見ると上位グループ

のExxonMobil及びShellの生産量は年央に落ち込んだもののその後は盛り返し今年第1四半期には1年前の水準に戻っており、下位グループ3社はわずかながらも生産量の増加傾向が見られる。最近の5社はいずれも天然ガスの増産に力を入れている様子が見える。

(6-3) 原油・天然ガス合計生産量



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見るとExxonMobilは減少傾向が見られ、その他の4社は年間を通じて横ばいである。2016年第1四半期の各社の合計生産量はExxonMobilが最も多い433万B/Dで5社の中では唯一400万B/D台である。これに続くのがShellの366万B/D、その他3社

はChevron(267万B/D)、Total(248万B/D)及びBP(243万B/D)でありExxonMobilのほぼ6割である。

今年第1四半期の各社の生産量は、ExxonMobil 415万B/D、Shell 375万B/D、Chevron 268万B/D、Total 257万B/D、BP 239万B/Dであり5社の順位は変わらないが、トップのExxonMobilと最も生産量が少ないBPとの格差は縮小している。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

2017年1-3月期国際石油企業の業績

年		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2017年1-3月	63,287	71,796	55,863	41,183	33,421
	前年同期	48,707	49,732	38,512	32,841	23,553
	増減(%)	29.9%	44.4%	45.1%	25.4%	41.9%
総合損益(百万ドル) (*)	2017年1-3月	4,010	3,538	1,449	2,849	2,682
	前年同期	1,810	484	▲ 583	1,606	▲ 725
	増減(%)	121.5%	631.0%	-348.5%	77.4%	-469.9%
上流部門損益(百万ドル) (*)	2017年1-3月	2,252	▲ 530	1,256	1,382	1,517
	前年同期	▲ 76	▲ 1,350	▲ 1,205	498	▲ 1,459
	増減(%)	-3063.2%	-60.7%	-204.2%	177.5%	-204.0%
下流部門損益(百万ドル) (*)	2017年1-3月	1,116	2,580	1,706	1,023	926
	前年同期	906	1,700	1,880	1,128	735
	増減(%)	23.2%	51.8%	-9.3%	-9.3%	26.0%
売上高利益率(%)	2017年1-3月	6.3%	4.9%	2.6%	6.9%	8.0%
	前年同期	3.7%	1.0%	-1.5%	4.9%	-3.1%
設備投資(百万ドル)	2017年1-3月	4,169	4,306	3,823	780	4,392
	前年同期	5,127	5,324	4,381	3,923	6,469
	増減(%)	-18.7%	-19.1%	-12.7%	-80.1%	-32.1%
原油生産量(1,000B/D)	2017年1-3月	2,333	1,866	1,389	1,303	1,708
	前年同期	2,538	1,781	1,409	1,286	1,781
	増減(%)	-8.1%	4.8%	-1.4%	1.3%	-4.1%
ガス生産量(100万 cfd)	2017年1-3月	10,908	10,935	5,791	6,894	5,807
	前年同期	10,724	10,905	5,910	6,441	5,310
	増減(%)	1.7%	0.3%	-2.0%	7.0%	9.4%
同石油換算(1,000B/D)	2017年1-3月	1,818	1,886	999	1,266	968
	前年同期	1,787	1,880	1,019	1,193	885
	増減(%)	1.7%	0.3%	-2.0%	6.1%	9.4%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	2017年1-3月	4,151	3,752	2,388	2,569	2,676
	前年同期	4,325	3,661	2,428	2,479	2,666
	増減(%)	-4.0%	2.5%	-1.6%	3.6%	0.4%

* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。